

# 保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 篠原敬一 編集者 高山英樹



『ボール大好き』



『大丈夫/ちゃんと持ってるよ』



『ひとつふたつみつ』



『そら豆むいちゃった』



『がんばるぞー』



『はかせちゃろうか?』



『次は、ぼく!』



『つつ冷たかーっ。』

vol.121

平成31年度1号

【写真を提供していただいた保育園】  
笹丘セレーナ、笹丘コスモス、福浜、  
だきしめ、信明、信和、長住、野ばら

理事長・副理事長挨拶	2
協会役員、事務局、保育士会の紹介	3
平成～令和 年表	4～5
キャリアアップ	6

新園紹介	7
コラム	8
編集後記	8



理事長あいさつ

野方保育園 園長 篠原 敬一



令和元年は、保育界にとって2つの点で大きなターニングポイントの年となります。

1つ目は、幼児教育・保育の無償化です。

「幼児教育・保育の無償化は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育・保育の重要性や幼児教育・保育の負担軽減を図る少子化対策の観点などから取り組むもの」とされています。

幼児教育・保育は、生涯にわたる人格形成や教育の基礎を培う重要なものであり、乳幼児期に質の高い幼児教育・保育を受けることが、その後の学力向上や将来の所得の向上、生活保護受給率の低下等につながるというベリ―就学前計画の追跡調査結果やジェームズ・ヘックマンの「就学前の幼児教育・保育こそが最も高い経済効果を生む教育である」との主張があります。

また、「A1」や「様々な物がインターネットに接続されるIoT」の新時代に生きる子ども達が、人間らしく生き生きと生きていくためには、その乳幼児期に、人と関わり合うこと・身体を使うこと・自分で考えることが好きな子どもに育つために必要な質の高い幼児教育・保育を誰もが無償で受けられるようにすることが必要です。

少子化については、総務省がこれまでの日に毎年発表する15歳未満の子ども数の推計人口（平成30年4月1日現在）によれば、前年より18万人少ない1,553万人で、37年連続

の減少となったとのことです。今回の推計人口の内訳をみても、0〜2歳が293万人、3〜5歳が298万人、6〜8歳が313万人、9〜11歳が323万人、12〜14歳が326万人と確かに減っています。総人口に占める15歳未満の子どもの割合は、昭和25年には総人口の3分の1を超えていたましたが、昭和40年には総人口の約4分の1となり平成30年には約8分の1になってしまいました。こうした中で、幼児教育・保育の無償化は、保護者の負担を軽減することにより少子化に歯止めをかける切り札として期待されています。しかし、「2号認定子ども（保育所等3〜5歳）は、主食費・副食費ともに、施設による徴収を基本とする」とされたため、新たな課題が出てきました。

2つ目は、子ども・子育て新制度の5年目の見直しです。

子ども・子育て新制度の5年目の見直しに関して、「公定価格の個々の経費の設定と実際の運営コストとの比較による公定価格の検証・分析を踏まえた設定」を行うとされています。

2、3号認定の利用児童数は、平成27年度237万人に対し平成30年度261万人です。約1.1倍に増えたとはいえませんが、子ども・子育て新制度の保育（2、3号認定）関連予算の額（運営費公費ベース）は、平成27年度1兆801億円に対し平成30年度1兆6,293億円なので、約1.5倍になりました。この費用対効果の妥当性を検証するために、財務省は初めて、「子どものための教育・保育給付」に対する予算執行調査を行いました。その結果を受けて財政制度分科会から「各々対象となる費目を積み上げる『積み上げ方式』から、実態調査等に基づき、人件費・事業費・管理費等を包括的に評価する『包括方式』への移行も検討すべ

きではないか。」との改革の方向性が示され、それが、子ども・子育て会議で資料として配布されました。確かに、例えば臨時講師に対する合理性のない予算配分方法は基本額から加算へは正されるべきであると考えますが、社会保障の基盤を揺るがしかねない危機的な少子化の中で、児童福祉に包括方式を導入することは、認められません。

もし、「包括方式」が採用されれば、実態調査のたびに吊り天井が落ちてくるように委託費が削られ、身を縮めるしかなくなります。せっかく死守した児童福祉法第24条1項が、空文化されてしまいます。

「積み上げ方式」を堅持することこそが、児童処遇や保育士処遇を守り、保育士処遇の向上、子どもの健全やかな育ちを支えることに繋がります。ひいては日本の明るい未来を創ることになると考えます。このことを、研修等で皆様と再確認した上で、悔いが残らぬよう、令和元年に何をなすべきかを皆様と共に考えていきたいと思います。

福岡市と福岡市保育協会の協調関係の構築について

福岡市の高島市長は、住む人がもっと幸せになれる街にするために「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市を目指す」ことを街の目標に掲げておられます。都市活力の強化のためには、優秀な労働力の確保が必須条件であり、そのためには保育の質の確保と量的拡大が必要となります。

保育の量的拡充のために、保育所定員が五年間で約1万人増員されましたが、それに伴い保育士の確保がますます困難になりました。その解消のために、福岡市は福岡市保育協会と協議し、平成29年度には保育士実務補助事業補助金を、そしてさらに平成31年度から福岡市保育士奨

学金支援事業補助金を創設して下さいました。今年も、福岡市と協力して、誰もが安心して等しく保育を受けられる仕組み作りとして、福岡市独自の「保育の質の確保と向上」に

副理事長あいさつ

静ヶ丘保育園 園長 西村 洋子



令和元年を迎え、新しい時代へ羽ばたく子ども達のために、日々の保育に励んでいらつしやることと思います。

一日のほとんどの時間を保育園で過ごしている子ども達の生活の質・保育の質を良いものにするためには、まず時代の流れや今の社会の状況を知ることが必要です。少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化の進行、共働き家庭の増加等があり、そのことを背景に様々な課題が顕在化してきています。児童虐待の件数も増加してきており、大きな社会問題となつていきます。

私達はそのことを嘆くのではなく、それにどう対処するかを考える事が大切です。保育所保育指針の「保育の目標」では、「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を養う」とあり、そのためには、「子どもの現在のありのままを受け止め、その心の安定を図りながらきめ細かく対応をしていくことが重要である」とされています。子ども達の幸せにつながる保育をどのように考え実践するかを、皆様と切磋琢磨しながら、保育の質の確保と向上を図りたいと思います。



要する保育士の処遇改善や、働きやすい職場環境整備の推進等を構築してまいります。どうぞ皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

城浜保育園 園長 増本 律秀



この度、副理事長2期目を務めさせて頂きたくこととなりました。新元号にもなり、あらためて身の引き締まる思いですが、篠原理事長を支えながら福岡市保育協会の運営に全身全霊を捧げる所存です。

今年、子ども・子育て支援制度改定5年目の見直しの年であり、その見直しのひとつとして取り上げられている公定価格については、今後の保育園運営に多大な影響を及ぼしかねません。何としても積み上げ方式を堅持し、乳幼児期の子ども達の保育を実施する上で重要な安全の確保や、一人ひとりの育ちに寄り添うような保育の質の向上に努めていかなければなりません。この議論に関して今年度は皆様にご理解、ご協力いただくことが必須となりますので、是非よろしくお願いたします。

また、10月には、幼児教育・保育の無償化が予定されており、それに伴う給食費の徴収方法など、新たな問題が懸念されています。これについても、市当局ともしっかりと意見を交わし、保育現場に負担がからなような仕組みにしたいと考えます。令和が、明るく、豊かで、幸多い時代になるよう、我々が担っている目の前の子どもたちもしっかりと質の高い保育を施し、明るい未来を創造していただくと願っております。今年度も協会運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。



研修部

部長 富田 芳江 田中 恵美子 藤田 和子 清武 恵子 佐野 正人



総務部

部長 城戸 裕子 西尾 達 古賀 成磨

福岡市保育協会  
理事会組織と  
メンバー



古賀 一郎



楠 峰光

監事



部長 古川 保流 宮岡 誠 高山 英樹 鹹味 美緒 伊藤 嘉朗

広報調査部



部長 高田 史敬 阿部 克伸 春田 雅孝

予算運営管理部



皆様方のご支援とご協力をどうぞよろしく  
お願い申し上げます。

このたび、保育士会の会長という大役を拝命いたしました、いるべ保育園の平野と申します。保育士会の温かさや学びの深さで、保育士会に対する愛着からお引き受けしたものの、責任の重さを今頃になり痛感しております。令和という新しい元号の年度が始まり、秋からは保育の無償化も始まります。だからこそ、乳幼児にとって質の高い保育がいかに大切なものであるかを社会に発信する良い機会でもあります。そして、その保育を担っている保育士がいかに貴重な仕事であるかも同時に発信したいですね。

荒川前会長を中心に作り上げてこられた、キャリアアップをはじめとした素晴らしい取り組みの数を継承発展し、保育士の質の向上を目指して取り組んでまいります。

福岡市私立保育士会  
会長挨拶  
平野 理江



局長 石井 克子 山口 久嘉  
中村 昌子 居石 佐知子  
宮原 悦子

協会事務局

福岡市私立保育士会役員名簿(平成31年度)

会長	平野 理江	(いるべ保育園)
副会長(広報部)	小幡 悦子	(星の原団地保育園)
副会長(総務部)	飯田 亜紀	(若草保育園)
副会長(研修部)	日野 瑞江	(ふたば保育園)
グループ研修指導主幹	土田 珠紀	(早緑子供の園)
会計	平石 仁美	(愛咲美保育園)
会計	鬼武 ユカ	(オリーブ保育園)
会計	天野 恵	(あゆみらい保育園)
会計	吉田 祥子	(あたごはま保育園)
補助金会計	筒井 久美	(順和保育園)
補助金会計	玉井 博子	(玉川保育園)
企画	岡本 幸代子	(内野保育園)
企画	篠原 美保	(野方保育園)
庶務リーダー	真崎 玲子	(長尾保育園)
庶務副リーダー	松尾 由紀	(だきしめ保育園)

庶務	白水 彩華	(デュランタ保育園)
庶務	岩永 美紀子	(松月保育園)
庶務	原田 千加	(こどもの園純真)
書記	川端 裕子	(星の子保育園)
書記	岩永 悠希	(つくし保育園)
主任保育士研究会委員長	江口 世子	(どろんこ保育園)
給食検討委員会リーダー	矢岡 久爾香	(松翠保育園)
広報	浅川 綾	(野ばら保育園)
監事	荒川 英子	(光和保育園)
監事	大塚 美津子	(みどり保育園)



飯田副会長 小幡副会長 日野副会長



# 平成と保育

保育ふくおか題字

進藤市長

# 保育ふくおか

桑原市長

# 保育ふくおか

## 年表

平成元年(1989年)	4月 消費税3%導入
平成二年(1990年)	10月 東西ドイツ統一
平成三年(1991年)	12月 湾岸戦争勃発
平成四年(1992年)	12月 ソ連崩壊、パウル経済崩壊
平成五年(1993年)	6月 P.K.O.協立法案成立
平成六年(1994年)	6月 村山内閣成立
平成七年(1995年)	6月 福岡市保育協会の養成校合同就職説明会実施、エンゼルプラン 王監督就任(5位)
平成八年(1996年)	3月 阪神淡路大震災(M7.3)
平成九年(1997年)	1月 地下鉄サリン事件発生
平成十年(1998年)	4月 キャンパルシティがオープン
平成十一年(1999年)	4月 勤続手当が新設
平成十二年(2000年)	4月 福岡市市民福祉プラザ会館が開館、家庭支援推進母雇用費が新設、保育協会ホームページ開設
平成十三年(2001年)	2月 長野五輪開催
平成十四年(2002年)	9月 王ダイエー優勝、日本シリーズ(中日)も制す
平成十五年(2003年)	9月 東海村JOC臨界事故発生
平成十六年(2004年)	9月 新エンゼルプラン 王ダイエーリーグ2連覇、日本シリーズ(巨人、ON対決)惜敗
	6月 三宅島噴火
	3月 「保育」が国家資格「保育士」に
	3月 USJ開業
	9月 アメリカ同時多発テロ発生
	9月 王ダイエー優勝、日本シリーズ(阪神)も制す

## 保育制度の変遷と今後の課題について

元福岡市保育協会予算運営管理部部长 白鳩保育園園長 古賀一郎

大都市の待機児童、地方都市での定員割れ、そして保育士不足と、保育を取り巻く問題は政府の積極的な介入にも関わらず、具体的な解決への方向性が見えてきません。それに加え、令和2年度からの公定価格における積み上げ方式・包括方式の見直し検討など、保育政策は非常に重要な転換期を迎えようとしています。

今回の寄稿では、前述の問題点を考察するにあたり日本における保育制度の変遷を振り返り、その流れや方向性を見極めながら今後の展望を考えていきたいと思います。

保育所は明治期に始まり、当初は事業家や紡績工場経営者等が、そこで働く母親のために民間で設置していました。大正7年に大阪で初めての公立の保育所(当時の名称は愛染託児所)ができ、東京や近郊にも広がりました。そして戦後1947年(昭和22年12月)に児童福祉法が制定されて、託児所は児童福祉という新しい理念のもとに保育所となり、認可保育所という制度も生まれました。

この認可保育所は、国の認可基準を満たした施設に補助金が投入されるもので、平成30年4月時点で約2万3千524カ所(利用園児約2,088,400名)あります。その他にも認定こども園、特定地域型保育事業等を含めると約3万4千700箇所(利用園児約2,614,400名)となっています。(出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局調べ)

国は第二次世界大戦の復興と高度経済成長を支えるため、扶養控除税制等を目玉とした雇用促進と労働人口拡大を政策的に奨励していきます。

その政策推進のために「保育に欠ける」子ども達のために、福祉として保育所を作るという政策を同時進行させていきます。

基本的には福祉政策であったため、その他の福祉政策と同様に、社会主義的ないわば「措置制度」を実施しました。具体的なやり方として、各自自治体が直接運営する公立保育所、民間の社会

が打ち出されます。

このシステムは、児童福祉法第24条1項の国や自治体の保育実施義務を形骸化し、「子育てサービスの産業化」(経済産業省「産業構造ビジョン」より)を目指すものでした。さらに、十分な議論もなしに保育園と幼稚園を一体化する「総合こども園構想」も打ち出されました。

これに対し、九州保育三団体や北海道保育三団体を中心となり様々な反対活動を実施し、平成23年11月14日(月)に東京の日比谷公会堂にて全国の保育所(園)関係者2,000名を集め、多くの有識者や国会議員と共に制度変更に対する反対を宣言しました。

これらの経緯を経て、「子ども・子育て新システム」は大幅な修正が行われ、平成27年度から実施された現行制度の「子ども・子育て支援新制度」へと繋がります。

ここまで日本の保育制度の変遷をたどりましたが、世界的な視野で大変参考になる資料があります。

OECD(経済協力開発機構)民主主義を原則とする先進国36カ国が構成する国際機関の2012年(平成24年)報告書「人生の始まりこそ力強くIII(Starting Strong III)」の中では、保育の目的のとらえ方には国により二つの流れがあると指摘しています。

第一の考え方は、「子ども達がグローバル経済のきびしい競争経済の中で労働力としてやっていくためには、学習のための準備、就学のための準備を幼児期にしておかなくてはならない」という考え方で、これは、子どもを「未来の労働力」として捉える立場から保育は「学校への準備」としてこそ重要であり、その成果は「学校での成功」に役立つかどうかで決まる考え方で、報告書によればこの考え方は「読み書きや算数など、幼児期に特定の技能や知識を教えないければならないという学制的な課題へのプレッシャーが大きい」となり、ひいては幼児期に身につけるべき他の課題が軽視されることにつながる

## 『あの時、私は』

平成元年生まれの保育士

令和が始まり、約2ヶ月が経ちました。平成の時代に生まれ育った私にとって、マスメディアの発達は何よりも切り離せないものです。特に携帯電話は幼い頃から身近なもので、私が携帯電話を買ってもらったのは中学1年生の時でした。学校から家に帰ると、友達とメールのやりとりをするのが日課で、休みの日に友達と遊ぶときの待ち合わせを決めるのは、当日直前ということが多く、母親に「お母さん達の頃は、前日に家の電話で約束を決めていたのに、今は便利ね。」と言われて、初めて携帯電話は便利なものなんだなあと気付いたほどでした。

このような時代に育った私たちにも想像がつかないほど、たくさんの便利なものが出てくるであろう令和の時代だからこそ、意識して人と人とのつながりを大切に、保育を行っていききたいと思えます。

(信明保育園保育士 洲上顕世)

## 福岡県西方沖地震H17・3・20

「まさか福岡で！」という驚きを飲み込んで「この建物は安全です。落ち着いて下さい」と努めて冷静に声をかけ続けていました。平成17年3月20日土曜日午前10時53分、最大震度6弱。福岡県西方沖地震の発生です。私の園は卒園式の真っ最中でした。みんなともだち「熱唱中。グラリ」ときた直後に全保育士が園に駆け寄り底おうとする姿に強い感謝と尊敬の念を抱かされたものでした。中断させられた卒園式は翌日、生々しい記憶が蘇るのを避けるためホールではなく保育室で行いました。「あん時はすごかったねえ一時々遊びに来る当時の園児たちと笑いあえる幸せを噛みしめています。(信和保育園園長 伊藤嘉朗)

## 東日本大震災H23・3・11

平成は震災の時代といわれますがその最大のもは平成23年3月11日の東日本大震災でした。最大震度7、押し寄せる津波、街を覆う炎。テレビで見守るしかなかった私は当時青年部長を務めており「今の私たちに何が出来るか」を考え続けました。結局「何はともあれ現地に行って東北の保育仲間を励ますこと」しか思い浮かびませんでした。ただ見守

# 保育ふくおか

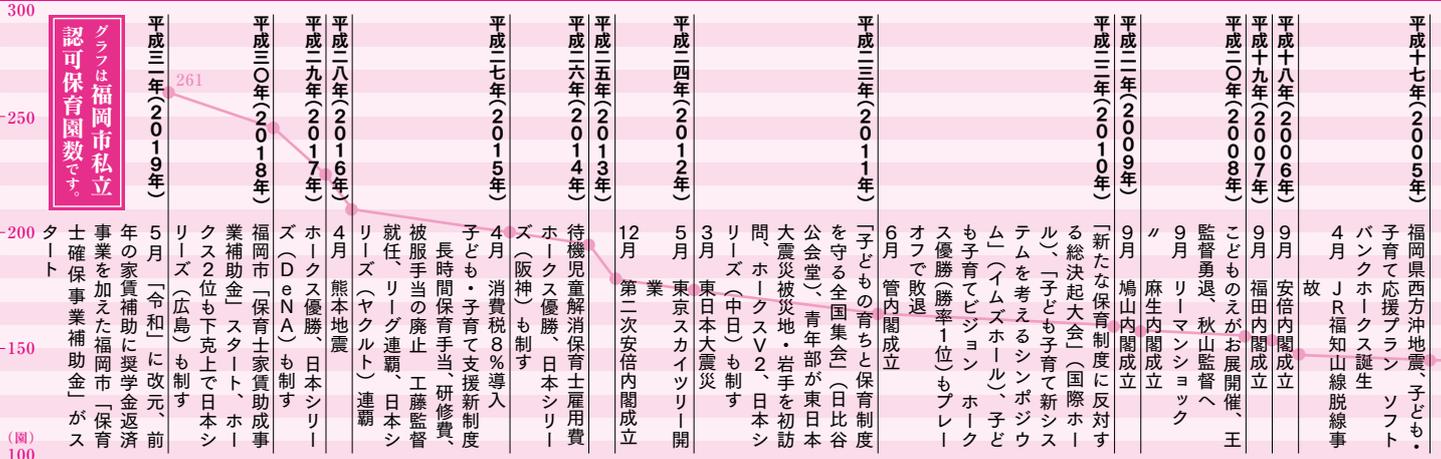
高島市長

# 保育ふくおか

吉田市長

# 保育ふくおか

山崎市長



### ◆保育ふくおか 創刊号



### ◆保育ふくおか 42号



福祉法人に委託を行う私立認可保育園に大別されます。社会福祉法人は、社会福祉事業法で定められた法人格で、政府の行いたい福祉事業を受け、税制面でのメリット(法人税の免除)の代わりに、積立金の使途制限や営利を目的としない等の各種の強い規制をうける事業体です。政府としては、全てを公立保育所で行うことは財政的に難しかったため、戦前から各地で独自に事業を行っていた慈善事業家や社会事業家に対して補助金等を使い、効率的に福祉サービスを広げていきます。

1985年に雇用機会均等法が施行され、女性が正社員として働く数が増加し、働く母親の数は飛躍的に増加していき、1990年代(平成2年頃)中盤には共働き世帯数が専業主婦世帯数を追い越すという状況になります。

国は1994年(平成6年)にエンゼルプラン、1999年(平成11年)に新エンゼルプラン等の施策を打ち出しますが、政策の大きな方向転換をするには至りませんでした。

1990年(平成2年)より2000年(平成12年)代からは不況と非正規労働の増加によって、夫の収入だけでなく家計を維持することが困難になり、母親の就労がパート・派遣労働等、多様な形態をとりながら更に進みます。

このような労働環境や子育て環境の変化に伴い、2003年(平成15年)に「次世代育成支援対策推進法」「少子化社会対策基本法」「保育士資格の法定化」など、新たな保育政策に踏み出すこととなります。

そして2009年(平成21年)9月に政権交代があり、新政権による新たな保育制度「子ども・子育て新システム」

「人生の始まりこそ力強くIII」(Starting Strong III)「保育の質を高める」大宮勇雄著

「危険がある」と明確に問題点を指摘しています。それに対し、第二の考え方は子ども時代を未来への準備期と見るのではなく、「それ自身が重要な意味を持つ人生の段階」とする立場です。

報告書はこの考え方を端的に示すものとして、ノルウェー政府の文書の一説を紹介しています。「人生の一つの段階としての子ども時代は、それ自身が極めて高い価値を持つ時代であり、子どもにとっての自由な時間、独自の文化そして遊びは決定的に重要なものである。」と。

OECDの報告書は明確に第二の考え方を支持しています。しかし単純にどちらが正しいという答えではなく、「今ここにある生活を生きている」子どもたち一人ひとりに「意味のある今日の生活」を保障すること、そのことがその子の未来の人生を豊かにすることにつながる。そういう形で二つの子ども感・保育感を統合すべきであると指摘しています。

日本の保育制度の変遷を考えると、第一の考え方(子どもを未来の労働力として捉えた保育・教育)であることは明らかです。待機児童対策のみの観点からではなく、子どもたちが自由に遊びに集中することができ、その環境を通して人としてのコミュニケーション力を育てていけるような環境を、公的責任において福祉としての保育を整備拡充して欲しいと心から願っています。

**春の叙勲受章** おめでとーございます

令和元年の春の叙勲で弥永保育園・山本ひさ子園長(瑞宝双光章)、千里保育園・山崎道子副園長(瑞宝単光章)、元第2つばみ保育園・主任保育士 田村明子先生(瑞宝単光章)を受章されました。おめでとーございます。

子どもの権利、児童福祉法第24条1項を巡る攻防

当時の与党・民主党が推し進めようとした「子ども・子育て新システム」は市町村の保育実施義務を明文化した児童福祉法第24条1項を完全否定するもので当然受け入れられるものではありませんでした。市町村の実施義務ではなく「市町村の責務」では「子どもの権利」が法的に保障されないのです。福岡市の保育関係者から始まった同24条を護る運動は平成23年、東京・日比谷公会堂における全国集会で結実し、最終的には「税と社会保障の一体改革」で「子どもの権利」は護られました。「令和の時代」に入りましたが保育界には「社会福祉」ではなく「社会事業」という考え方の人もいます。そこには「子どもの権利」を護る発想がありません。厚労省も認定子ども園へのインセンティブを主張しています。

昨今「幼児教育・保育の無償化」が決定されましたが世界を見るに「子どもの権利」を法的に保障せずに無償化した一部の国では「保育の質」は劣化し、無償化すらとりやめようとする意見も出ているくらいです。「令和の時代」も「子どもの権利」を法的に保障する国であって欲しいと祈ります。

(元福岡市保育協会理事 玉川保育園園長 永野繁登)

# キャリアアップ

近年の多様化する保育現場において、子どもや子育てを取り巻く環境は大きく変化し保育所や保育現場にも、より、高度な専門性が求められるようになりました。「福岡市保育協会」「福岡市私立保育園保育士会」でも、職務内容に応じた専門性の向上をより高めるために平成30年度より、保育士等キャリアアップ研修を実施しています。キャリアアップを受講された皆さんに研修で専門分野を学ばれた感想や決意をお聞きしてみました。



**乳児保育**  
野澤 亜由美  
(桜坂保育園)

今回、乳児保育の研修を受講し「子どもの気持ちに寄り添った保育の大切さ」を改めて学ぶことができました。自分の思いをまだ言葉で伝えることのできない乳児にとって、私たち保育者が一人ひとりの気持ちに寄り添い一人ひとりの欲求に応えていくことがどれだけ大切なのか、また、気持ちに寄り添うことで愛着関係が形成されていくということを学びました。今回の研修を通して、再認識できたことを大切に、これからも一人ひとりの子どもたちに寄り添った保育を心掛けていきたいと思



**幼児教育**  
高木 絵里香  
(井尻保育園)

幼児教育の研修を受講し、「個を見ていく保育」環境を通して行う保育の大切さを改めて学びました。グループ討議で一つの遊びの中にも沢山の姿等の能力が育っていき、小学校につながるしていく事を、他園の先生方と共有でき、とても参考になりました。そして、予想と全く違う展開になった時こそ保育の力が必要である事も知りました。この研修を通して、自分の保育を振り返り、子ども達が主体的に遊びながら発達できるように環境づくりを心掛け、また子ども一人ひとりの姿をしっかり見ながら成長を保障していきたいと思



**障がい児保育**  
武田 恵美  
(長住保育園)

今回の研修を通して、障がいの理解や環境、家庭や関係機関との密な連携など、より深く学ぶことが出来ました。また、園に通ってくる子どもたち一人ひとりを大切にし、その子に合った保育実践をする事が子どもの成長を助け、日々の生活を豊かにするのだという事に改めて気付くことが出来ました。これからも、保育現場において子どもたちの「気になる」を見逃さず、日々の保育をより充実させていきたいと思



**食育・アレルギー対応**  
矢岡 久爾香  
(松翠保育園)

キャリアアップ講習では内容の濃い講習を短時間で集中的に受けられ、今までに身につけていたスキルを整理することができました。また、「食育・アレルギー対応」という項目で、保育士、主任保育士などの立場の異なる職種の先生方と共に学び、意見を交わすことができたことが調理師の私にとってとても新鮮で、多くの気づきを得る体験となりました。このような貴重な機会を頂いたことに感謝し、気持ち新たに努力を重ねて行きたいと思



**保健衛生・安全対策**  
阿具根 美和  
(野ばら保育園)

今回キャリアアップに参加させていただいて給食の事だけでなく保育の事も学べたことで、普段子どもと接していく中で気を付けていくべきことを再認識出来たと思



**保護者支援・子育て支援**  
中山 智子  
(順和保育園)

この研修で保護者支援・子育て支援の大切さ、難しさを感じました。悩んでいる保護者を支援するために、私たち保育士はどの様に関わっていくのか？保護者とのコミュニケーションは私にとっての課題であり、忙しさにかまけて後回しにしてしまうところがありました。子どもの育ち、生活が少しでも改善され良いものになるためにこの研修で得た知識を今後に生かし、保護者が話しやすい環境を作り、聞き上手な保育士になりたいと思



**マネジメント**  
岩永 悠希  
(つくし保育園)

今回、マネジメントの研修に参加する事ができ、様々な学びと発見がありました。今までミドルリーダーとして「リーダーシップを取らなければ」「みんなをひっぱっていかなければ」と変な責任感がむしやりに頑張っていました。が、須先生から「分散型協同的リーダーシップ」という所で保育士の得意な分野でリーダーを選びみんなを共有して解決に導くという私の考えにはなかつたリーダーシップの有り方に驚きました。分散型にすることで新たな方向性、またみんなで話し合いながら一つの解決策を考えることで職員同士の仲も深まり一人ひとりの責任感から保育の熱も大きく変わっていくのではないかと思

## 他の参加者の声



### マネジメント

- 一人ひとりが発言・発信できる園内研修を充実させ、職員間のコミュニケーションを密にした。(他23件)
- グループワークで他園の取り組みを知る事が出来、とても充実した研修だった。(他15件)
- とてもわかりやすく、保育に活かせる実践的で内容の濃い研修でした。(他14件)

### 保健衛生・安全対策

- 嘔吐物やその他感染症の対策をしっかりと行いたい。(他31件)
- 出血時対応の際は、手袋を使用し感染症予防に努めたい。(他16件)
- グループ討議で他園の職員と意見交換、情報交換が出来てよかった。(他11件)

### 幼児教育

- 10の姿を各職員と理解を深め保育に取り組みたい。
- コーナー遊び環境構成の見直しを行いたい。
- 新しい学び、気付き、保育指針について再度勉強出来た。保育指針を活用したい。

### 保護者支援・子育て支援

- 7つの基礎的応答技法を学んだ。保護者と話をするときに実践したい。(他27件)
- SFAを使ったロールプレイを行いたい。(他13件)
- 個別の指導計画を活用したい。(他11件)

# NEW!! 新園紹介

## 赤坂けやき通り保育園 (中央区)

園長 鐘ヶ江直美

定員 75名

学校法人光寿学園赤坂けやき通り保育園は、平成31年4月に中央区赤坂に開園しました。赤坂二丁目バス停より徒歩4分、赤坂緑地に隣接しています。福岡市の中心部とは思えない自然豊かな環境と安心安全な園舎のなかで日々の保育を行います。

保育理念は【ともに生きともに育ちあひ】です。丁寧にごともと関わり、寄り添いながら保護者や地域とともに成長していく園でありたいと思えます。

子どもとする自主性、挨拶、きまりやルールを守るという生活習慣の徹底と損得ではなく善悪でものこを判断する、人を優しく思いやる、人間関係作りを柱とした心の教育に努めてまいります。



## 福岡舞鶴誠和第一保育園 (西区)

園長 浦上美紀

定員 110名

福岡舞鶴誠和第一保育園は、福岡舞鶴高等学校を母体とし、4年前に福岡舞鶴誠和第一保育園の分園として開設。そして、今年度より一つの園として新たなスタートを切りました。

園の名称の中にある「誠和」は、学校開設者の川島アクリ先生の言葉「誠実・勤勉・温かな人間性の涵養」から最初と最後の文字「誠」と「和」を組み合わせたもので、本園の特色は、中学・高等学校の生徒によるボランティアの活動でのふれあい交流を通して、人との関りを体験・楽しめる人的環境に恵まれている点です。

今後とも今まで同様に「安心・安心・信頼」を大切に保育園づくりを心掛けていきたいと思えます。皆様よろしくお願致します。



## キッズキッズ松香台保育園 (東区)

園長 寺岡由美子

定員 60名

東区にこの4月、60名定員で開園しました。九州産業大学そばの丘の上の民家の中にあり、屋上園庭からは、360度福岡市街や海の方まで、見渡す事ができ、子ども達の賑やかな声が響き渡っています。

1. 自分の事を愛することも、親、友人そして自然を愛してほしい。2. 育んでくれる環境や文化を愛し誇れるようになってほしい。3. グローバルな視点を持ち社会に貢献することも大切にしたい。と願っています。手伝うことより、見守り介助することによって「できる」と実感する保育、ひとりひとりの心・気持ち・持つ力をを感じ取り引き出すように心がけています。ごもたちの輝く笑顔と保護者の方々の笑顔が増えますよう、お手伝いできたらとおもいます。



## ひなたの風保育園 (早良区)

園長 横山和明

定員 60名

今年の4月、小さくて狭い場所に、ひなたの風保育園を開園致しました。園の名称「ひなた」は、ゆっくりした時間をつくる。人柄をあたたくくし、よろこびや希望を吹く「風」に託し、子ども達が集まる保育園を目指して決めさせて頂きました。保育活動では、子どもの主体性を大切に、法人で考える「子ども」の主体性が育つ4つの柱を軸に保育を行っています。又、子どもは子どもらしく自然のままに過ごせ、目標に向かってチャレンジすることが出来る場所。職員は、既成概念に捉われずチャレンジし続け、子どもや保護者に寄り添う保育を目指しています。最高の職員と共に、地域に根付いた保育園になるよう頑張っています。



## ブライイト保育園福岡東比恵 (博多区)

園長 坂本睦子

定員 60名

平成31年4月より、博多区にブライイト保育園福岡東比恵を開園いたしました。全国にある社会福祉法人済聖会のグループ園の中で14番目の、そして県内では2園目の保育園です。近隣には様々なオフィスやお店があったり、あちこちでビル建設が進んでいたりしますが、一歩路地に入りますとすぐ近くに小学校、中学校、東福岡高等学校があり、自然もまだまだあります。

「かかわる人すべてのHAPPYを追求する」という法人理念のもとで、ひとりひとりの子どもたちの心に寄り添った保育を目指します。子どもを丸ごと受け止める先生といふ何たかうれし、安心するという体験をたくさん積み重ねていけるように関わっていきたくと考えております。子どもたちや保護者の皆様そして地域に親しまれ、信頼される保育園であり続けるために精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



## 笹丘セレーナ保育園 (中央区)

園長 浦田真弥

定員 80名

今年4月、中央区の笹丘に開園した笹丘セレーナ保育園です。「セレーナ」とは、スペイン語で「穏やかな」「晴れ晴れとした」「曇りのない」という意味です。園で過ごす子どもたちが「セレーナ」のように過ごしてほしいという思いが込められています。

定員80名の4階建て、屋上には芝生の園庭が広がる園舎の中、子どもの自主性を尊重し、様々な体験を通して「自分で考え、自己選択し、人や物に対して思いやりと愛情をもって生き抜く力」が身につくよう「すべては子どもたちのために」という保育理念を合言葉に、全職員が協力し、子どもにとってのよりよい環境を整えています。



コラム

明るい未来を切り拓くために

しあわせの星保育園 園長 井上正志



平成から令和に年号が変わった節目の年に「保育心くおか」に寄稿出来ることを光栄に存じます。

私が保育業界に飛び込んだ過去を振り返り、未来を担う保育者の皆様へメッセージをお伝えします。

私は南区老司にある、しあわせの星保育園の園長を務めて16年目を迎えています。福岡市が平成十四年に待機児童の解消のため新設園を公募した際、家族の理解もあり応募して、その年の12月に選定されました。そのとき私は40代半ばで、大学を卒業後会社に20数年勤務していた。仕事内容は営業が中心で、販売・仕入れ・イベント企画などをしていました。10月から応募の必要書類の作成に手がけ、未知の世界にチャレンジする準備をしました。正直、保育業界未経験の私が福岡市から選定されるとは思わず、連絡を受けたときは驚きと喜び、そして不安でいっぱいでした。翌年の正月に三社詣に行き、神頼みをして覚悟を決めました。わからないことだらけでしたが「必死でやれば何とかかなる」という思いで一つ一つ研究して、形をつくっていききました。春に会社を退職し、社会福祉法人理事の選定、保育園園舎の設計・建築、職員の採用、園児の募集、諸規程の作成など残された時間は一年間でしたが、やり遂げることが出来ました。多くの人の支えと協力があり本当に「感謝・感謝」の一言です。翌年7月に社会福祉法人秀和会を設立し、理事長に就任、平成十六年4月に定員120名のしあわせの星保育園が開園し、園長に就任しました。保育園での



実務経験がない私が児童福祉事業を始めた動機は3つあります。1つめは私が生まれ育った老司の地に貢献することです。2つめは平成十年から3年間老司小学校のPTA会長を務めた際、就学前教育の重要性を強く感じることです。3つめは乳幼児を育てている家庭の子育ての支えになるためです。

開園時定員120名に対し入所児童数102名からスタートし、年度途中で定員を満たしました。その後、順調に園児の入所があり、待機児童の増加に伴い、平成二十三年度に園舎を増築して定員を増やし170名としました。経営の安定のため、規模を拡大すると共に複数園化に取り組み、平成二十七年4月福岡市から脇山保育所の民間移管を受け、定員70名の保育園を運営することになりました。そして2年間の時間をかけて移転、建て替えを行い、今年4月に定員を増やし110名としました。

この仕事のやりがいには子どもの成長を間近で見ることが出来ることや、職員が社会人として自立・成長した姿を見ることです。人を育てるには子どもも大人も「手とり、足とり、手塩にかけられる」ことが大切だと実感しています。私は福岡市保育協会の会員になり、微力ながらも少しでもお役に立ちたいと委員と理事をさせて頂いてきました。二年目から研修専門委員を4期8年、理事を3期6年務めました。協会の理事は最初、総務部に所属し、その後2期4年広報調査部で就職説明会、就職フェアの企画立案・実施、福岡市と協力して養成校訪問、機関紙「保育心くおか」の作成・発行に携わってきました。その中で保育園の経営者、保育士や調理員など保育者の皆様、養成校の教職員や学生の皆様と多くの交流を持ち、学ばせていただきました。この経験を活かして、これからの保育界を担う皆様へ、未来への提言をさせていただきます。

補助職員の採用や外部への業務委託など経費がかかりますが、少しでも保育士の負担を減らすと仕事に余裕ができると思います。又、仕事内容や行事を見直し、選択と集中をする必要があります。今まで当たり前だったことのようにやっていたことも職員で前向きに話し合ってください。時間と労力をかけずに一定の成果を上げる方法がきっと見つかります。良好な職場環境を作るにはどうしたら良いでしょうか。国が推奨している「働き方改革」を受け、改善に取り組んでいる他業種・企業を見習うのもひとつの方法です。保育園では人や場所に限りがありませんが、創意工夫して自園で出来ることから始めましょう。

「どうしたら気持ち良く働けますか」まずは意識改革をすることが大切です。福岡市は究極の保育士不足でいずれの保育園もギリギリの人で保育や周辺業務をしている現状があります。しかし、どの業種も同様の悩みがあります。「子どもの最善の利益のため」「保育園に関わる全ての人のしあわせづくりのため」私たち保育者が一致協力して明るい未来を切り拓きましょう。



編集後記

令和元年6月

新しい時代「令和」を迎えました。平成を迎えた時は、自粛のなかレンタルビデオのほとんどが貸し出し中だった事を思い出しましたが、令和元年は祝賀ムードが広がり、平和への大きな期待を感じます。

私たち機関紙編集委員も新しい体制で、2年間計6回の発行を予定で、今回令和元年の第1号を発行するにあたり、平成の時代の様々なことを振り返ることができました。「保育心くおか」は理事長、園長先生をはじめ保育園に勤める職員皆さんの機関紙です。保育協会、青年部、保育士会の活動、園の取り組み等を紹介し、皆さんの声を聞き紙面を作っていくたいと思っておりますので、皆さんのご協力が必要です。魅力ある、興味を引かれる機関紙になるよう、編集委員一同力を合わせて取り組んでいきますので、保育協会または編集委員へみなさんの感想や意見をぜひお寄せください。お待ちしております！(高山)

令和

～感想やご意見はこちらにお送りください～  
【保育協会メールアドレス】kyoukai@hoiku.or.jp